

ペルー 北部の生食用ブドウ生産

FreshPlaza 2023年9月4日

輸出企業サフコ・ペルー社のベンジャミン・シロニス総括マネージャーは、過去数週間ペルーで最も繰り返された「北部について何を知っているか?」との質問に答えるのは簡単ではないと言う。(以下「」は同氏の発言)

これは、今年の3月と4月の豪雨の影響と、エルニーニョによる気温上昇の影響が生食用ブドウの木に大きな不確実性をもたらしており、この頻繁に繰り返される質問につながったためである。同氏は、ペルーの生食用ブドウ生産者は、温暖な気候が生産量にどのように影響するかについて、様子見のアプローチを採用する必要があると言う。

「今年の出荷量については、イカ県(中南部)では予定どおり緑色の品種を中心に数量が増えるだろう。ペルー全体としては、北部のピウラ県とランバイエケ県からの出荷量について少し議論がある。今年3月と4月の異常な雨天のため、通常ならブドウの木が成熟する時期に土壌中の酸素不足や真菌病の圧力の上昇など、ストレスの多い条件にさらされた。当時から、その条件が北部の2017/18年度の出荷量を50%減少させた2017年の同様の条件と同じ影響をもたらすかどうか疑問に思っていた。今回は、2017年から多くの教訓を学んでおり、北部の品種分布についてまったく異なるシナリオになっていた。

2週間前、ペルー生食用ブドウ協会(Provid)は、今シーズンの最初の出荷見通しを発表し、北部の出荷量についてはたった5%の減少を予測した。私が『たった』と言うのは、具体的な情報はないものの我々が聞いていたのは20%くらいだったからだ。」

同氏は、この最初の見通しには批判があったと言う。「そのレポートが発表されてからわずか2日後に、我々は新しい出荷見通しを出すように求められたためである。Providのレポートは、これまで最も正確な予測の1つとされており、この最初のレポートでは、今シーズンの出荷見通しを7,200万箱とした。

次の更新を待つ必要があり、最も重要なこととして、エルニーニョ現象が今後数か月でどのように発達するかを待つ必要がある。一般的に言えば、我々が予想できるのは、イカ県では出荷の時期が早く量が多くなり、おそらくピウラ県の出荷量は少なくなることである。」

同氏は、エルニーニョの温暖な気候はブドウの出荷を加速させるので、完全に悪いニュースではないと言う。これは、イカ県では最大30日早く発芽するためである。カリフォルニア州の出荷量が少ない場合、それは助けになるだろう。

「我々は、イカ県、そしてできればペルーというブランド名を、生食用ブドウ業界の最も信頼できる産地として位置づける絶好のチャンスに直面している。非常に独善的な発言のように聞こえるかもしれないが、ペルーの生産者は、可能な限り最も正確なプロセスで果実を収穫、選別、梱包、出荷するために細心の注意を払い、すべての関係者をできるだけ幸せにするべきだと考えている。今年の正確な数量はわからないが、ペルーの出荷量は将来的に8千万箱になると承知しており、それに取り組む必要がある。」

自社生産が増加する予定

「今年、弊社が自社の畑だけから果実を輸出する最初の年になる。10品種170万箱を管理し、正しい果実を各市場の正しい取引先に正しいタイミングで送ることは簡単なことではない。過去2年間に行った一部の品種の置き換えによって出荷量を増やしている。特に、アメリカと中国の市場で非常によく知られたブランドとなったオータムクリスプ品種を増やしている。」

執筆者: クレイトン・スワート